

子どものよりよい人間関係を育てるための 構成的グループ・エンカウンターにおける評価の工夫を探る

北方町立北方小学校 教諭 中村 元昭

要 旨

本研究は、教師が「構成的グループ・エンカウンター(Structured Group Encounter 以下略称... SGE)」を効果的に進めるために、評価の工夫の在り方を探ることを目標に実践的研究を行ったものである。SGEにおける事前・事中・事後での評価の結果を基に、SGEの計画や実施へとフィードバックし、授業にアレンジを加えるなどして、意図的・計画的にSGEを実践していくことは、子どもたちのよりよい人間関係をはぐくむことに有効であるということが分かった。

< キーワード > 子ども理解 評価の工夫

1 主題設定の理由

近年の大きな社会の変化は、現代に生きる人々にも大きな影響を及ぼしている。子どもたちも例外ではなく、心に関する悩みを要因とした、いろいろな不適応行動が複雑化・深刻化している。中でも、人間関係の希薄化に関する悩みを抱える子どもたちは、ますます増加の傾向にある。子どもが感じる学校の魅力とは、友達とかかわり合いながら過ごす楽しい生活にある。ところが、友達とうまくいかないなどの人間関係づくりに関する悩みが圧倒的に多いのが現状である。

このような背景の下、教育相談的側面から学校に求められていることは、よりよい人間関係を育てることだと考える。学校においては、人間関係づくりを目指してSGEを取り入れた教育相談、特別活動が実施されるようになってきた。しかしながら、その実施においては、エクササイズありきとなってしまったために、本来のねらいが学級の実態に対応していないあいまいなものになっていると感じる。また、SGEのねらいがどの程度達成されたか、教師の支援はどうであったかの評価がなされなかったために、次の実践に活かされず十分な成果が得られないということもあった。水上和夫は、「エンカウンターによる授業は、学習としてのねらいがどのように達成されたかをきちんと評価するようにしたい」⁽¹⁾と述べ、SGEにおける評価の重要性を唱えている。

そこで、本研究においては、SGEの活動に取り組む中で、事前・事中・事後における評価の結果を基に、SGEの計画や実施へとフィードバックしながら、意図的・計画的にSGEを実践していくことが、子どもたちのよりよい人間関係をはぐくむことに有効であると考え、本主題を設定した。

2 研究の目標

子どものよりよい人間関係を育てるためのSGEにおける評価の工夫を探る。

3 研究の内容と方法

(1) 研究の内容

- ア 子ども理解を深めるかかわり方を探るためのカウンセリングの基本的な態度や技法を身に付ける。
- イ 子どものよりよい人間関係を育てるためのSGEにおける評価の工夫を探る。

(2) 研究の方法

- ア 文献等により、理論及び指導方法についての研究を行う。
- イ 検証授業(4年生)を行い、検証の視点(指導・支援の有効性、ねらいの達成度)について検討する。
- エ 事前及び事後の実態調査により、実践の成果と課題をまとめる。

4 研究の実際 1 (主題のとらえ方)

(1) 「よりよい人間関係」とは

自分を価値あるもの(自尊感情)として思えるように、だれからも傷付けられないといったルールの確立の下に、互いに信頼し認め合ってかわり合える人間関係のことととらえる。

(2) 「評価の工夫」とは

よりよい人間関係づくりを目指して、計画 実践 評価のサイクルを繰り返しながらSGEに取り組む中で、評価結果を基に次の計画・実施へとフィードバックをして生かしていくことだととらえる。

5 研究の実際 2 (実践化への手立て)

(1) 「SGE」における評価活動の全体構想

図1に示すように、SGEを授業として仕組む段階では、事前、事中、事後における評価結果を授業に反映させることが大切である。事前調査を基に、実態に即した目的地の設定(目標の設定、ねらいの設定、単元の配列)やエクササイズを選定をする。次に、SGEの展開に学級の実態や評価結果に基づいたアレンジや配慮を加えて実践化へと結び付けていく。そのためには、何のために評価しているのかを教師自身がしっかりと把握しておく必要があり、表1に示すように、評価規準を作成して、事前、事中、事後の段階ごとに3つの観点(評価の目的、内容、方法)で整理してとらえることができるようにした。

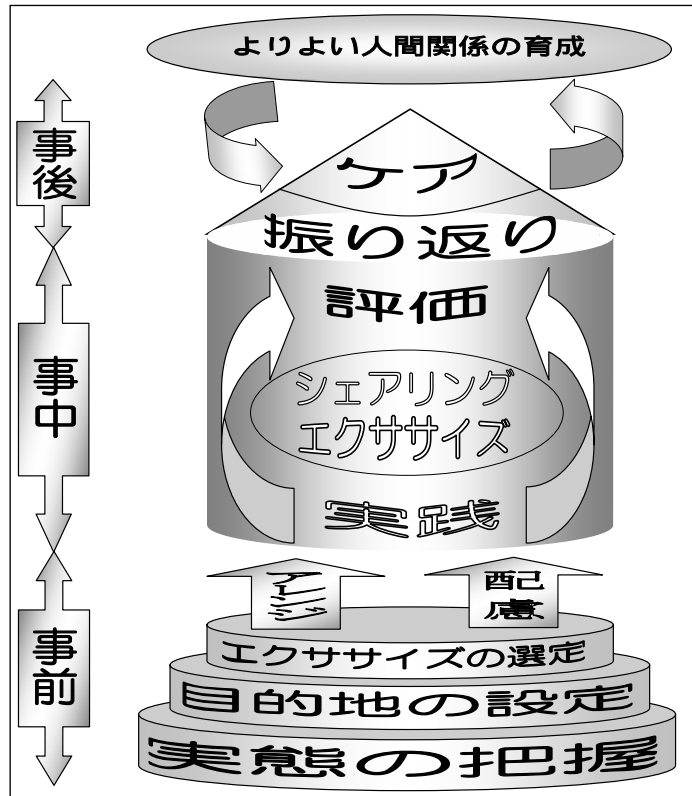


図1 評価活動の全

表1 評価規準

	評価の目的	評価内容		評価方法	
事後の段階	教師自身の自分育て	肯定的自己評価	子どもの希望・願い	ふりかえりカード(児童用,教師用)	
	リーダー性の向上	リーダー性			
	エクササイズを選定とアレンジ・配慮	配慮の妥当性	活動への参加状況	観察表	
	学級の実態把握	アレンジの妥当性	困った事	質問	
ケアの必要な子どもの発見とケア	ねらいの達成状況	個人面接			
事中の段階	効果的なシェアリング	ねらいの達成状況		観察	
	指導・支援の改善	配慮の妥当性		観察表	
	介入	アレンジの妥当性		質問	
	ダメージの排除	活動へ参加状況		ふりかえりカード(児童用)	
事前の段階	アレンジ・配慮	実態把握	学級集団の特徴		観察
	エクササイズを選定		子どもの顕著な特徴		学級特徴分類表
	単元の配列				
	単元のねらいの設定		質問紙法		
	目標の設定				

(2) 振り返りカードの作成と活用

子どもや教師に対する多面的・客観的な把握や幅広い対応に耐えうように自由記述欄や教師へのお願いや困ったことに関する欄、子どもから見た教師のリーダー性を評価する欄を取り入れた。

(3) 学級の特徴による分類

事前調査から解釈された学級の特徴を4つのタイプに分類し、学級の特徴による分類表を作成した。これを手掛かりとして、目的地やエクササイズ選びの手引きとした。ただし、学級の特徴は、1つとして同じものはないので、分類表にとらわれ過ぎずに、教師の観察や質問紙法など多面的な視点から実態を把握することが大切であるとする。尚、分類表は、紙面の都合により割愛した。

6 研究の実際 - 3 (授業実践による検証)

(1) 授業の実際

ア 実態把握

「Q-U:楽しい学校生活を送るためのアンケート」⁽²⁾、
「心のアンケート(10月実施)等の質問紙法にて調査した。

(ア) 学級集団の特徴

図2に示すように、侵害行為認知群は35%と全国平均を上回っていた。全体的に学校生活には意欲的である。

しかし、学級のルールは意識しているものの必ずしも守られていないようである。また、自尊感情は十分とは言えない。

(イ) 子どもの顕著な特徴

図3に示すように、友達関係は全国平均以下で、a児は、学級では発言が少なく、やる気のない性格が多い。

イ 目的地の設定

(ア) 目標:「触れ合いのある学級」

(イ) 単元のねらいの:「ルールを守る, 認め合いのある学級づくり」

(ウ) 単元の配列:「リレーションづくり」「自己・他者理解」「自己受容」「自尊感情」

ウ エクササイズの選定

表2に示すようなエクササイズを選定して、目標を目指すことにした。

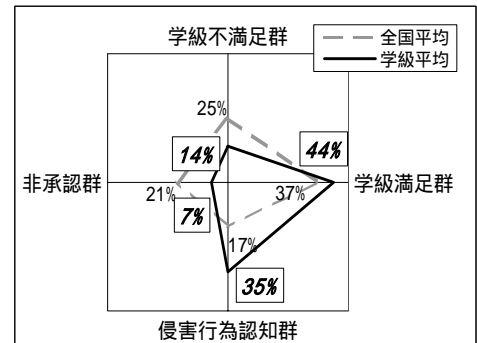


図2 学級満足度

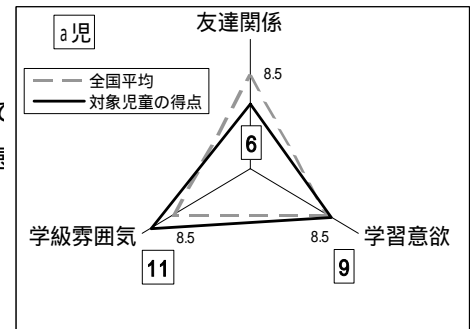


図3 a児の学校生活意欲度

表2 エクササイズの選定

エクササイズ	ねらい	内容
勝ち抜きジャンケン (11/20, 木:実施)	学級の中で,友達や教師とリレーションを深める。	音楽に合わせて出会った友達とジャンケンをする。負けた人が勝った人の後に付き,両肩に手を置きパワーを送る。
無人島SOS (11/25, 月:実施)	多様な考え方に気付き,お互いに認め合うことができる。	船が遭難し,無人島に漂着したという設定で,生き延びるために必要なものをリストアップして友達と話し合う。
友達大好き (11/29, 金:実施)	自分や友達を知り,肯定的に受け止められるようになる。	グループで友達の良いところを出し合い,双六にしてゲームを通して認め合う。
私はわたし (12/4, 木:実施)	自分や友達について理解を深め,尊重し合い,自信が付く。	カードの項目に沿って,匿名で自分のことを書く。全員分張り出し,内容を見ながらだれのことか予想して当てる。
自分大好き (12/11, 水:実施)	2学期に頑張ったところを認めてもらい自尊感情をもつ。	2学期に頑張ったことをグループ内で紹介し合い,双六にしてゲームを通して認め合う。

学級の実態, 目的地, エクササイズ

抵抗・ダメージへの配慮(B子, A男, B男)
 デモンストレーションへの効果的参加(活性化A子, 抵抗の軽減A男)
 導入時にルールに対する意識付けを徹底する。
 ゲーム性を強く出して, 楽しいイメージ付けをする。
 身体接触のエクササイズによりリレーションを深める。

配慮・アレンジ

評価を生かした実践の繰り返し

評価結果及び実態

- ・ねらいの達成状況は(達成度 91%, 子どもの感想多数確認)
- ・シェアリングのときの全体に対する発表緊張...40%
- ・前回, 思考性の強いエクササイズでは, 抵抗を示していたD子だが, 今回の活動レベルは適当だった。

場面	主な学習内容と 評価活動	子どもの様子	教師の支援
導入 ウォーミングアップ インスタラクション エクササイズ	(学習のねらい) 全体の信頼関係を深めることができる。 SGEに対して楽しいイメージをもつことができる。		
	SGEについて知る。 「勝ち抜きジャンケン」 をする。 ・抵抗, ダメージがないか観察 (A子, B子, A男, B男, C男) ・ルールを守っているか観察 (D子, G男, F男) ・質問, お願い等を尋ねる 【の手立て】	目標, 心構えを説明する。 ・正しい答えはない。 ・無理に参加しなくてよい。 ・人に嫌な思いをさせない。 【の手立て】	必要に応じて支援する。 【の手立て】
	エクササイズについて知る。 「勝ち抜きジャンケン」 をねらいに迫れているか観察 ・身体的距離は縮まったか ・友達同士の働き掛けは?	友達と仲良くなったと 感じるエクササイズだ	
	友達の手からエネルギーを感じるよ	デモンストレーションへ 参加させる。【の手立て】 ・本人の活性化(A子) ・抵抗の軽減(A男)	
シェアリング まとめ	シェアリングをする。 参加状況の観察 ・活発な発言はあるか ・どんな感情があるか	デモンストレーション に参加したらやりやすいな	
	まとめを聞く。 自己を振り返る。 ・気づきを書けているか観察 (B子, D子, H男)	支援する。【の手立て】 分かったぞ	

- ・説明が分かりにくく簡潔でない。
- ・友達とのトラブルでダメージを受けたA子の事後のケアと次時での配慮
- ・板書の工夫
- ・教師自身の傾聴する姿勢の徹底
- ・友達と認め合う場面があまりない。

評価結果及び実態

場面	主な学習内容と 評価活動	子どもの様子	教師の支援
ウォーミングアップ インスタラクション エクササイズ シェアリング まとめ	(学習のねらい) 自分や友達のことについて知り, 肯定的に受け止められるようになる。 「グループ作り競争」をする。 ・抵抗, ダメージがないか観察 (A子, B子, A男, B男, C男) ・ルールを守っているか観察 (D子, G男, F男) ・質問, お願い等を尋ねる 【の手立て】		説明は簡潔に心掛ける。 【の手立て】 余った子の配慮をする。 ・どこに入っても良い ・次の時頑張ればよい 【の手立て】
	エクササイズについて知る。 【の手立て】 「友達大好き」をする。 【の手立て】		友達の良いところが発見できて, お互いに認め合えるエクササイズです
	参加状況の観察 ・自分の考が言えてるか ・どんな感情があるか ・話合いに参加してるか (D子, H男, A男) アレンジは適当か観察 ・エクササイズの難易度 (D子)		話し合う場面を大切に 取り扱う。 認め合える雰囲気作り をする。【の手立て】 ・相手を見ながら言う ・拍手をして認める ・ありがとうの声掛け などを大切にしよう
	ほめてもらって嬉しい, ありがとう		
シェアリング まとめ	シェアリング に取り組む。 参加の状況の観察 ・真剣に聞いているか ・素直に表現しているか アレンジは適当か ・認め合いの手立ては適当か ・全員発表による共有化は?		やり方の手本を示す。 全員に発表させる。
	自己を振り返る。 ・気づきを書けているか観察 (D子, H) まとめを聞く。		共有化の手立てをする。 自分や友達の良いところが発見できましたか

配慮・アレンジ

抵抗・ダメージへの配慮(A子, B子, B男, A男)
 説明の明確化(B男)
 ルールの単純化, 思考性に伴う配慮(D子)
 ゲーム性を強くして抵抗の軽減(C子)
 認め合いのための手立て

(2) 実態の変容

よりよい人間関係を育てるために、評価の工夫を取り入れながら、実態より明らかになった「ルールの確立」や「自尊感情」の高まりを目指したSGEのねらいを設定して5時間の授業に取り組んだ。

ア 学級集団としての変容

(7) ルールの確立状況の変容

図4に示すように、全体的に高まったと言える。授業を通してチームワークや友達を尊重する大切さに気付いたためだと考える。

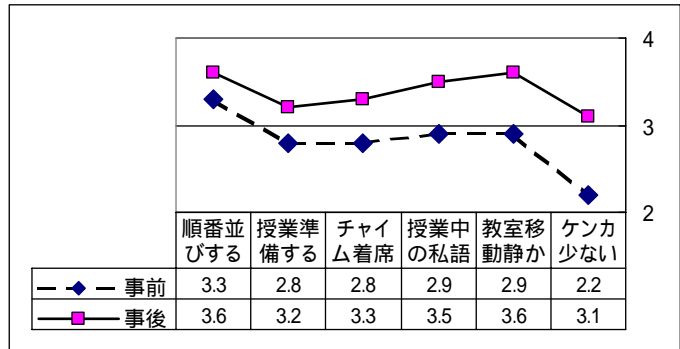


図4 ルールの確立に関する項目得点の変化

(1) 自尊感情の変容

a アンケートの結果より

図5に示すように、全体的に高まったと言える。特に自分が好きの項では1.4ポイント上がっている。自分の頑張りや良いところ見付け、それを友達に認めてもらったことで、自分に自信が付いたのではないかと考える。

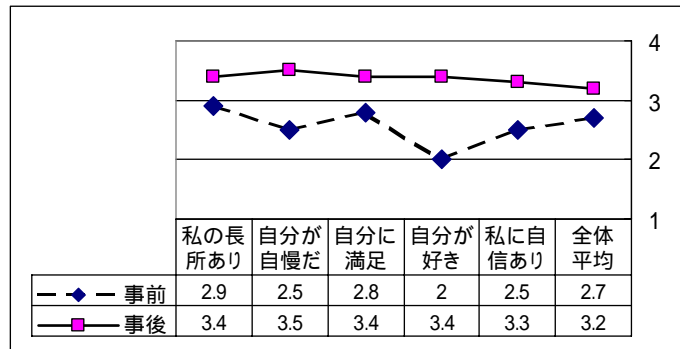


図5 自尊感情に関する項目得点の変化

b 子どもの感想より

図6に示すように、単元終了時の子どもの感想より、自尊感情が高まったことが分かる。ねらいに沿った効果的な授業づくりができたと考えられる。

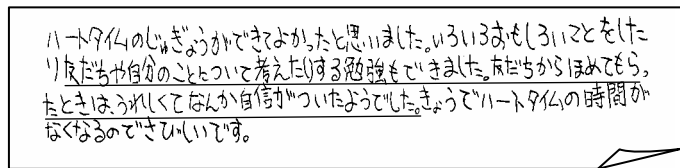


図6 単元終了時の子どもの感想

イ 子どもの変容

(7) 学級満足感の変化から

図7は、「Q-U：楽しい学校生活を送るためのアンケート」(2)より、事前調査(10月)の侵害行為認知群、学級生活不満足群、非承認群に属する子どもたちが、事後調査(12月)では、4つの群のどこに所属しているかを表した。4つの群それぞれの所属人数の推移が示しているように、ほとんどの子どもが学級生活満足群にいたることが分かる。

実際に作業の場面では、声を掛け合い楽しく取り組む姿が見られるようになった。授業中は、引っ込み思案だった子どもの、自信をもって発表する姿が見られるようになってきた。

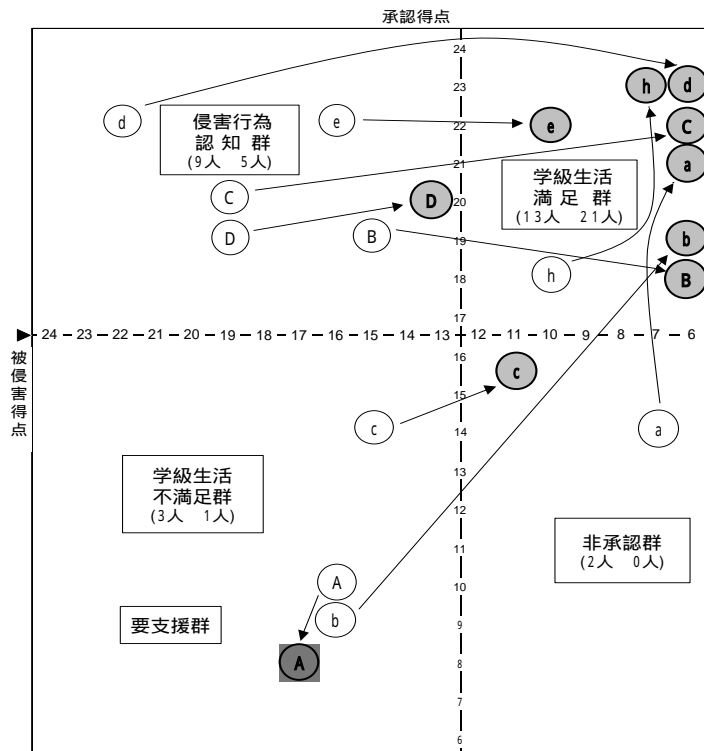


図7 学級への満足感の変化

(1) a 児の変容

a 児は、活動意欲が低くやる気が見られないときが多い。また、発言が少なく、自分の本当の気持ちも抑えてしまうようなところがある。事前の調査では、自分のことを認めてもらえないと思っていることや自分に自信がもてずにいることがうかがえた。しかし、

単元終了時の感想には「今日が最後の授業なので残念です」と述べていた。図 8 に示すように、承認得点と自尊感情の得点の伸びが見られる。自分を認め応援してくれる友達の存在に気付き、自信が付いてきたと考えられる。2 学期末に実施された学期の振り返りでは、係活動やグループ活動での頑張りを友達から認められていた。

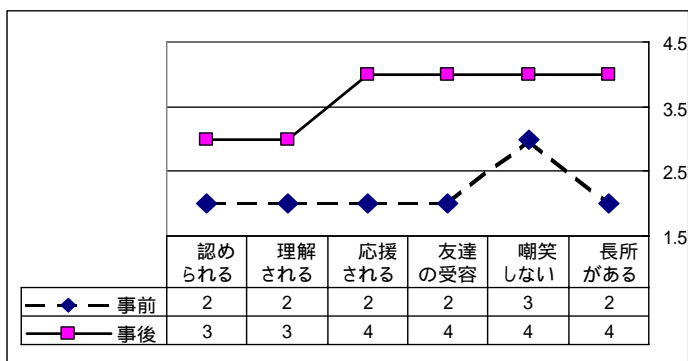


図 8 承認得点()と自尊感情得点()の変化

7 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究の成果

教師サイド及び子どもサイドからの多面的な視点で実態把握をすることにより、より確かな学級集団(学級・子どもの特徴)の把握ができた。そのことで、実態に沿ったよりよい人間関係づくりのための目的地の設定、エクササイズの設定ができた。

教師及び子どもの振り返りカードや観察表の活用、分からないことや教師にお願いしたいことをきめ細かに質問するなどの評価方法をもって幅広く客観的にとらえた評価の結果より、授業の成果や課題が明らかになった。そのことで、次時の授業のアレンジや配慮が明確となり、効果的な活動へとつなげることができた。また、配慮を要する子どもの把握が可能となったために、授業中の子どもの状態を的確にとらえることができ、時期を得た抵抗の軽減、介入、ケアなどの支援へとつながったために、子どもと教師の信頼関係が深まった。

シェアリングでの肯定的な相互評価によって子どもたちの自尊感情が高まった。

教師のリーダー性に対する評価を子どもの振り返りカードより、客観的にとらえることができたことにより、次時での教師の支援の在り方や授業の展開を効果的にするための手立てが明確になった。

以上のように、S G E における評価の工夫をすることにより、より効果的な S G E の実施が可能となった。そのことが、子どもが各 S G E のねらいに迫り自尊感情を高めることや子ども同士、教師と子どもとの人間関係を深めることにつながった。このように、S G E における評価の工夫をすることは、子どものよりよい人間関係を育てることに有効であるということが分かった。

(2) 今後の課題

効果的なシェアリングのため、以下のような手立てを探る。

- ・ 自分や友達の感情を意識したり気付いたりするシェアリングの充実を図るために、効果的なインストラクションやエクササイズのシンプル化、シェアリングの形態の工夫などの手立てを明らかにする。
- ・ 肯定的な自己評価力は、肯定的な他者評価を踏まえて発展していくものである。そこで、シェアリングを通して、肯定的な他者評価力を高めるための手立てを明らかにする。

《引用文献》

(1) 國分 康孝監修 『エンカウンターで学校を創る』 2002年 図書文化 p.199
 (2) 國分 康孝総監修 『Q-U:楽しい学校生活を送るためのアンケート』 平成11年 図書文化